

「徳島県がん対策推進計画」（素案）に係るパブリックコメントの実施結果について

令和5年12月7日(木)から令和6年1月5日(金)までの間、「徳島県がん対策推進計画(素案)」に係る意見募集を行ったところ、7名の方から7件の御意見を頂きました。御意見の概要と県の考え方は、次のとおりです。

No.	ご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
1	早期発見の重要性や治療法や予防について、全世代への周知が大切だと思います。	今後も、早期発見、早期治療につながるがん検診の受診促進に積極的に取り組んでまいります。また、どの世代に対しても分かりやすい情報発信を心がけてまいります。
2	病院で前立腺がんと診断されましたが、がん検診で前立腺がん検診ができるようになればいいと思います。	当計画の28ページにも記載のとおり、現在、国の「がん予防重点教育及びがん検診実施のための指針」に基づき、県の実施要領を策定し、科学的根拠に基づいたがん検診が実施されています。前立腺がん検診については、死亡率減少効果の有無を判断する証拠が不十分であるため、現在のところ市町村で実施されている対策型検診としては勧められていません。今後も国の動向を踏まえて、国の指針に基づいたがん検診の実施に努めて参ります。
3	デジタル化の提言として、「AIやセンシング等の新しい手法や技術を活用する」等を入れたらいかがでしょうか？	当計画の49ページに「ICTやAIを含むデジタル技術の活用等により、患者やその家族等の医療・福祉・保健サービスのアクセシビリティを向上させるとともに、行政及び医療機関等が効率的かつ効果的にサービスを提供できることを目指します。」と記載させていただきます。
4	<p>がんとの共生について、相談支援になるかもしれないのですが、徳島大学病院の相談支援センターは、入りづらいことや、ほかの病院にはがんについての冊子が揃えてありますが、2週間前に覗いたときには何もありませんでした。</p> <p>いきいきらいふというものだけで、あれではがん相談支援センターということもわかりにくく、また、誰も窓口にはらっしやらずつ毎回行ってみるものの、声を掛けられたこともありません。</p> <p>もう少しわかりやすい入りやすい雰囲気づくりを希望します。</p> <p>私には知り合いにピアサポーターの人に相談して治療生活を安心できたという方がいます。それは私たちは医療だけじゃなく生活の部分に至るまで初めてのことでわからないので、同じ環境の方に相談することで、これからのことが整理できてとても良かったと言っていました。</p> <p>でも徳島大学病院ではピアサポートを希望してもあまり良い顔はされませんでした。</p> <p>ピアサポーターを拠点病院では必須にすることを強く希望します。</p>	<p>徳島大学病院の相談支援センターについて、頂いた御意見を共有させていただきます。</p> <p>また、相談支援を受けたい方が、必要な相談支援に繋がるような体制整備を推進してまいります。</p> <p>がんを実際に体験したピア・サポーターに相談することで、不安や悩みが軽減されることがあると思います。ピア・サポーターの相談を希望される方が、必要な相談支援に繋がるよう、拠点病院等と連携し、ピア・サポート体制の整備を行ってまいります。</p>

「徳島県がん対策推進計画」(素案)に係るパブリックコメントの実施結果について

令和5年12月7日(木)から令和6年1月5日(金)までの間、「徳島県がん対策推進計画(素案)」に係る意見募集を行ったところ、7名の方から7件の御意見を頂きました。御意見の概要と県の考え方は、次のとおりです。

No.	ご意見の概要	ご意見に対する県の考え方
5	第3章に前推進計画の進捗状況・評価が掲載されているが、本計画には具体的な施策が掲載されていないためわかりにくい印象です。前計画に比べて、どのような取り組みで進捗しているか評価できる仕組みが必要と考えます。	PDCAサイクルの実効性を確保するため、ロジックモデルを作成し、計画・実施・アセスメント・評価ができる体制整備に努めます。
6	今後、計画に沿った施策のアウトプットを図る指標が出てくると思いますが、その際には個別目標の手前の中間アウトカムを作ることで進捗がより見えてくると思います。また、指標には公的な出典を用いること以外に徳島県独自の患者体験調査なども加えて頂けると徳島県の実態に寄り添う計画になるのではと感じます。	PDCAサイクルの実効性を確保するため、ロジックモデルを作成し、計画・実施・アセスメント・評価ができる体制整備に努めます。がん患者及びその家族等の実態及びニーズに基づいた施策を講じていくことが、重要であると考えます。徳島県独自の患者体験調査について、拠点病院をはじめとする関係機関等と協議してまいります。
7	<p>○災害時の対応はがん対策に入れなくてもいいのでしょうか。能登半島地震で強く思いました Op42 平成23年度から、ピアサポートを行うためにピアカウンセラー養成事業を実施していましたが、平成26年度からは、養成研修修了者をピアサポーターとして登録し、拠点病院等で自らの経験を活かし、がん患者の悩みに寄り添った相談を行ってきました。のところ</p> <p>日赤で行われていたようですが他の拠点病院では行われていないように思います。 なぜピアサポーターを養成しているのに進められなかったのか原因を探ってみなければ、相談をしたい方がピア・サポーター等に繋がるための仕組み作りや体制整備はできないように思います ピア・サポーターの活動の場が少ないなら県が作ってくださればいいのにおもいました。 ○現状、課題・取り組みの方向性はあらわされているがそれに続き目標達成が確認できる、測定可能な指標を設定することが必要ではないか。 PDCAサイクルを回すことができるよう、計画で終わることがないように指標を設定しロジック形式での計画を期待しています。</p>	<p>○災害に関しては、53ページに記載しております。 行政、医療・福祉機関等と連携し、感染症発生・まん延時や災害時等の状況下においても、必要ながん医療を提供できるよう、診療機能の役割分担や各施設が協力した人材育成、応援体制の構築等、地域の実情に応じた連携体制を整備する取組を平時から推進してまいります。</p> <p>○ピア・サポーターについて これまでピア・サポート体制のルールが明確にされておらず、医療機関においてピア・サポーターの活用が難しい現状がありました。また、コロナ禍で外部のピア・サポーターの方が医療機関に入って相談支援を行うことが難しい現状もありました。 来年度、先進的に取り組まれている他県を参考に、ピア・サポート体制の整備を行う予定です。ピアの相談支援を必要としているがん患者及びその家族等が、必要な相談支援を受けて、安心して治療やその後の生活を送れるような相談支援体制の整備を目指してまいります。</p> <p>○PDCAサイクルの実効性を確保するため、ロジックモデルを作成し、計画・実施・アセスメント・評価ができる体制整備に努めます。</p>